

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:理学部・理学研究科

| | | |
|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価 | 【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価 | 【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定 |
| S | S | S |

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

| 項目 | 評定 | コメント(評定に至った主な理由) |
|----------|----|--|
| 【教育】 | S | 平成29年度計画の達成状況が優れている。 |
| | | 平成31年度から開始予定の共通教育カリキュラム改革、特に理系専門基礎教育科目の刷新に、責任部局として積極的に寄与しており、これまでの「理学部コア科目」を総括し、新しい「専門基礎教育科目」の見直しを行ったことが特に評価できる。 |
| 【研究】 | S | 平成29年度計画の達成状況が優れている。 |
| | | 平成29年4月1日付で理学研究科初の共同研究講座である「質量分析オープンイノベーション共同研究講座」(日本電子(株))を設置しており、また平成30年3月1日付で、様々な分野の複数の研究者と様々な分野の複数の企業が集うことでイノベーションを起こすことを目指す「質量分析オープンイノベーション協働ユニット」を立ち上げていることが評価できる。 |
| 【社会貢献】 | A | 平成29年度計画の達成状況が良好である。 |
| | | |
| 【グローバル化】 | A | 平成29年度計画の達成状況が良好である。 |
| | | |
| 【業務運営】 | A | 平成29年度計画の達成状況が良好である。 |
| | | |

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

新たなダブル・ディグリー・プログラム協定を締結したこと、これまでにダブル・ディグリー・プログラム協定を締結した協定校より学生の受入れを行っていること、締結数が非常に多く大学実績に大きく寄与している点が高く評価できる。

また、研究科独自の予算でTOEIC受験料の一部補助を行っており、学部生18件、大学院生85件(延べ人数)の支援を行っていることが高く評価できる。